

都市再生整備計画 事後評価シート

中心市街地再生計画地区

平成29年 1 月

岡山県津山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名		岡山県		市町村名		津山市		地区名		中心市街地再生地区			面積		123ha		
交付期間		平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期		平成28年度		交付対象事業費		2,519 百万円		国費率		0.438			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業		事業名 道路(地区集散道路)、公園(井口公園)、地域生活基盤施設(津山駅北口広場)、高質空間形成施設(カラー舗装、照明施設)、高次都市施設(観光交流センター)													
		提案事業		地域創造支援事業(道路側溝整備事業、だんじり展示館整備事業、作州民芸館整備事業)、事業活用調査(都市再生整備計画事業効果分析調査、まちなかシネマ実証実験事業)、まちづくり活動推進事業(まちづくり啓発事業、町並景観整備事業)													
	当初計画から削除した事業	基幹事業		市道H169号線(カラー舗装) 市道1001号線(カラー舗装)					公共下水道の整備が施行されているため、事業中止 先に側溝整備の必要があり検討を要するため、事業中止				影響なし				
		提案事業		まちづくり活動推進事業(町並啓発用展示品整備事業)					市内の観光啓発を根本的に見直すため、事業中止				影響なし				
		基幹事業		道路(電線共同溝)					国道の事業と連携して、津山駅北口広場も電線共同化を図る				指標4(津山駅周辺施設利用者の満足度)において好影響であるが、指標は据え置く				
		提案事業		地域創造支援事業(津山駅前観光センター内発券場整備事業)					観光交流センター内に広場内で発着するバスの発券場の整備を図る				指標4(津山駅周辺施設利用者の満足度)において好影響であるが、指標は据え置く				
	交付期間の変更	当 初		平成24年度～平成28年度			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—							
		変 更		—													
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単 位	従前値 基準年度		目標値 目標年度		数 値 モニタリング 評価値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)		フォローアップ 予定時期		
指標1		歩行者自転車通行量	人/日	8,138	H24	8,250	H28	7,405	8,973	○	あり、 なし	都市基盤整備によるところもあるが、新規出店した民間テナントの集客力によるところが大きい。		平成30年1月			
指標2		人口の年間社会動態	人/年	-77	H23	±0	H28	-49	11	○	あり、 なし	高齢者専用住宅の入居などにより社会動態の減少傾向が増加に転じており、期待以上の成果を上げた。		平成29年5月			
指標3		歴史文化関連施設利用者数	人/年	17,776	H23	26,000	H28	22,019	22,467	△	あり、 なし	数値目標には達していないが、増加傾向を示している。また、1年後の数値目標の達成は厳しい。		平成30年1月			
指標4		津山駅周辺施設利用者の満足度	—	3.0	H23	3.8	H28	—	2.5	×	あり、 なし	津山駅北口広場の整備中であり、従前値より低下しているが、整備完了により数値目標は達成できる。		平成29年5月			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単 位	従前値 基準年度		目標値 目標年度		数 値 モニタリング 評価値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)		フォローアップ 予定時期			
	その他の数値指標1																
4)定性的な効果発現状況	津山市の玄関口である津山駅北口広場が綺麗になり、市民として誇れるまちになったとの意見が聞かれる。 津山駅北口広場のバスのりばにベンチが設置され、また、観光案内所の公衆トイレが綺麗になり、トイレトベーパーが常備されており、快適で便利が良いと言う意見が多数聞かれる。 作州民芸館広場が広く綺麗になり、イベント開催時など使い勝手が良くなったと地元及び運営側も喜んでいる。 井口公園の整備により、地元町内会よりお礼状が届き、また、市内学生が卒業記念植樹を行なうなど、地域に親しまれる施設が出来たと感じている。 津山駅北口広場整備に続いて、南北自由通路や南口広場整備の早期完成を望む声も聞かれるようになった。																
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等						
	モニタリング	平成26年度に、津山市統計書等によるモニタリング	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●			モニタリング同様に毎年度の津山市統計書等により確認する。								
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●											
	住民参加プロセス	津山駅周辺の街づくりのあり方を考える住民の会とのワークショップ 中心市街地活性化協議会とのワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●			今後も住民の意見を聴き、周辺整備計画等にて反映させる。 整備計画の実施を踏まえ、津山城周辺のまちづくりについても検討を開始し、今後のまちづくりに反映させる。								
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●											
持続的なまちづくり体制の構築	津山駅周辺住民による住民の会	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●			次期整備計画である南北自由通路等の整備に向けて連携強化を図る必要がある。									
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●												
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			●												

様式2-2 地区の概要(1)

[illegible]

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道G023号線 (井口～井口)	50	L=210m	50	L=210m	なし	影響なし	●	
道路	市道B257号線 (新魚町～新魚町)	91	L=30m	102	L=30m	詳細検討の結果、歩道幅員を拡幅 (2.0⇒2.5m)して整備	影響なし		●
道路	市道H048号線≪電線類共同溝≫ (大谷～横山)	—	なし	111	L=100m	平成25年に計画変更して追加 国道の事業と連携して、津山駅北 口広場も電線共同溝化を図る	指標4(津山駅周辺施設利用者の満足度)において好影響である が、指標は据え置く		●
公園	井口公園	480	A=2.0ha	517	A=2.0ha	用地交渉の遅延による事業期間の 延伸	影響なし	●	
地域生活基盤 施設	津山駅北口広場	1,287	A=7, 400㎡	1,218	L=7,400㎡	用地交渉の難航により暫定形によ る供用開始	影響なし		●
高質空間形成 施設	駅前元魚町線 (カラー舗装)	49	L=360m	80	L=137m	一部躯体部分の改修が必要なため 事業費増	影響なし		●
高質空間形成 施設	駅前元魚町線 (照明施設)	4	N=6基	16	N=6基	詳細調査の結果、支柱の交換が必要 なため事業費増	影響なし		●
高質空間形成 施設	市道H169号線 (カラー舗装)	9	L=75m	—	中止	平成28年に計画変更して削除 公共下水道の整備が施行されてい るため、事業中止	影響なし		
高質空間形成 施設	市道1001号線 (カラー舗装)	13	L=205m	—	中止	平成28年に計画変更して削除 先に側溝整備の必要があり検討を 要するため、事業中止	影響なし		
高次都市施設	津山駅前観光センター (観光交流センター)	20	2階建 A=110㎡	87	2階建 A192㎡	整備に当たり、用地購入費を計上 したため事業費増	影響なし	●	
既存建造物活 用事業(地域 生活基盤施 設)									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	道路側溝整備事業	40	L＝810m	33	L＝497m	地元同意形成及び交通規制等を考慮した施工のため、施工場所の変更	影響なし	●	
	だんじり展示館整備事業	150	A＝350㎡	166	A＝300㎡	詳細検討の結果、だんじり展示数の確定等に伴う配置の変更	影響なし		●
	作州民芸館整備事業	46	A＝200㎡	52	A＝600㎡	既存広場部分の改修を実施したため事業費増	影響なし	●	
	津山駅前観光センター内 発券場整備事業	—	なし	7	A＝15㎡	平成25年に計画変更して追加観光センター内に広場内で発着するバスの発券場の整備を図る	指標4(津山駅周辺施設利用者の満足度)において好影響であるが、指標は据え置く	●	
事業活用調査	都市再生整備計画 事業効果分析調査	6		1		事後評価は直営で実施したため事業費減	影響なし	●	
	まちなかシネマ実証実験事業	14		15		なし	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業	まちづくり啓発事業 「専門家派遣事業」	20		18		派遣期間短縮による事業費減	影響なし		●
	町並啓発用展示品整備事業 「情報収集・提供活動」	7		—	中止	平成28年に計画変更して削除市内の観光啓発を根本的に見直すため、事業中止	影響なし		
	町並景観整備事業	15		5		申請建造物数の減に伴う事業費減	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
交通安全対策事業		市道H136号線 (大谷路切)	430	363	H22～H27	H22～H28	平成28年6月に竣工し、ボトルネックの解消となった。		
田町武家屋敷(長屋門)保存事業		田町地区(武家屋敷周辺)	87	21	H25～H27	H25～H26	平成27年3月に竣工し、田町地区の観光拠点として賑わいの創出に寄与している。		
暮らし賑わい再生事業		元魚町地区	609	42	H25～H27	H25～H27	平成28年1月に竣工し、交流施設や居住施設により賑わいの創出に寄与している。		
暮らし賑わい再生事業		山下地区		122		H28～H30	平成30年度の竣工に向けて、平成28年度に実施設計を行っている。		

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
					基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	歩行者自転車通行量	人/日	定期観測している当該地区7地点の平日・休日の通行量を加重平均により1日の交通量とし、城見橋通行量を加算する	16,257	H14	8,138	H24	8,250	H28	モニタリング	H26	7,405	モニタリング	△	●	
										事後評価	確定 見込み	● 8,973	事後評価	○		
指標2	人口の年間社会動態	人/年	住民基本台帳の大字別データを抽出し、当該地区の社会動態(転入・転出)を把握する	—	—	-77	H23	±0	H28	モニタリング	H26	-49	モニタリング	△		
										事後評価	確定 見込み	● 11	事後評価	○		
指標3	歴史文化関連施設利用者数	人/年	津山市統計書のデータを抽出し、当該地区2箇所の歴史文化関連施設の利用者数を把握する	13,557	H14	17,776	H23	26,000	H28	モニタリング	H26	22,019	モニタリング	△		●
										事後評価	確定 見込み	● 22,467	事後評価	△		
指標4	津山駅周辺施設利用者の満足度	—	駅利用者を対象に面談方式による満足度調査を集計する	—	—	3.0	H23	3.8	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	△	●	
										事後評価	確定 見込み	● 2.5	事後評価	×		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	平成28年4月にオープンしたアルネ津山内のテナントへの集客力が大きな効果であり、期待以上の成果を上げることができた。	
指標2	暮らし賑わい再生事業の関連事業で実施したサービス付き高齢者専用住宅が平成28年1月から入居が開始されるなどの整備により、社会動態の減少傾向が増加に転じており、期待以上の成果を上げることができた。	
指標3	事後評価の時点では数値目標に至っていないが、毎年度の調査結果を見ると増加傾向を示している。しかし、1年以内の数値目標の達成は厳しい。	
指標4	津山駅北口広場の整備中であり、従前値より低下しているが、1年以内の整備工事の完成時点では数値目標の達成の可能性はある。	
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○:評価値が目標値を上回った場合
△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

津山市の玄関口である津山駅北口広場が綺麗になり、市民として誇れるまちになったとの意見が聞かれる。
津山駅北口広場のバスのりばにベンチが設置され、また、観光案内所の公衆トイレが綺麗になり、トイレトペーパーが常備されており、快適で便利が良いという意見が多数聞かれる。
作州民芸館広場が広く綺麗になり、イベント開催時など使い勝手が良くなったと地元及び運営側も喜んでいる。
井口公園の整備により、地元町内会よりお礼状が届き、また、市内学生が卒業記念植樹を行なうなど、地域に親しまれる施設が出来たと感じている。
津山駅北口広場整備に続いて、南北自由通路や南口広場整備の早期完成を望む声も聞かれるようになった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
津山市統計書等によるモニタリング	予定どおり実施した	●【実施頻度】 毎年度1回 【実施時期】 毎年度6月 【実施結果】 採用した指標は津山市統計書等により毎年度、数値が整理されているものであり、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	モニタリング同様に毎年度の津山市統計書等により確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
津山駅周辺の街づくりのあり方を考える 住民の会とのワークショップ	予定どおり実施した	●【実施頻度】 計11回 【実施期間】 平成24年度～平成28年度 【実施結果】 住民の会でアンケート調査などを実施し、意見を整備計画に反映した。また、整備事業の前中後に説明会を開催するなど、事業内容の広報に努めた。	今後も住民の意見を聴き、周辺整備計画等に反映させる。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
中心市街地活性化協議会とのワークショップ	予定どおり実施した	●【実施頻度】 計12回 【実施時期】 平成26年度～平成28年度 【実施結果】 ワーキンググループでの協議を含め、都市再生整備計画を踏まえた中心市街地の街づくりについて協議し、整備計画の変更を中心市街地活性化計画に反映させた。	整備計画の実施を踏まえ、津山城周辺のまちづくりについても検討を開始し、今後のまちづくりに反映させる。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
津山駅周辺住民による住民の会	予定どおり実施した	●交通観光案内所の会議室を活動拠点として整備する。	津山駅周辺の街づくりのあり方を考える住民の会	次期整備計画である南北自由通路等の整備に向けて連携強化を図る必要がある。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
津山駅周辺地区整備検討会 ≪社会資本整備総合交付金事後評価検討会≫ 【庁内の横断的な組織】	関係各課(政策調整室、経済政策課、観光振興課、 管理課、土木課、公園緑地課、建築住宅課、下水 道課、歴史まちづくり推進室の課長級職員及び産 業経済部・都市建設部の各企画調整官)	第1回:平成28年8月18日(木) 第2回:平成28年10月17日(月)	津山市都市計画課 (社会資本整備総合交付金主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2					
指 標 名		歩行者自転車交通量		人口の年間社会動態					
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	道路 市道G023号線改築事業	△	調査地点により減少箇所も有るが、集計では増加に転じており、都市基盤整備によるところもあるが、アルネ津山内の新規出店のテナントによる集客力の影響が大きく、歩行者自転車交通量の増加となり、数値目標の達成となった。	○	暮らし賑わい再生事業の完成や道路を始めとする都市基盤整備により、民間開発も促進され、社会動態人口の増加となり、数値目標の達成となった。				
	道路 市道B257号線改築事業	○		○					
	道路 市道H048号線改築事業	○		○					
	公園 井口公園	△		○					
	地域生活基盤施設 津山駅北口広場	○		○					
	高質空間形成施設 照明、カラー舗装等	○		○					
	高次都市施設 津山駅前観光センター	○		○					
提案事業	地域創造支援事業 道路側溝整備事業	○		○					
	地域創造支援事業 だんじり展示館整備事業	○		△					
	地域創造支援事業 作州民芸館整備事業	○		△					
	地域創造支援事業 駅前観光センター内発券場整備事業	○		○					
	事業活用調査 事業効果分析	—		—					
	事業活用調査 まちなかシネマ実証実験事業	◎		○					
	まちづくり活動推進事業 まちづくり啓発事業	△		△					
	まちづくり活動推進事業 町並景観整備事業	△		—					
関連事業	交通安全対策事業 市道H136号線改良事業	△		○					
	田町武家屋敷(長屋門)保存事業	△		△					
	暮らし賑わい再生事業	○		◎					

※指標改善への貢献度
◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	・歩行者自転車通行量の増加を確たるものにしていく必要がある。 ・減少箇所も有ることから、全ての調査地点を増加傾向に導く必要がある。	・社会動態人口の増加を確たるものとしていく必要がある。		
-------	--	-----------------------------	--	--

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3		指標4									
指 標 名		歴史文化関連施設利用者数		津山駅周辺施設利用者の満足度									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見		目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路 市道G023号線改築事業	—	津山駅周辺整備事業により、観光案内所を一時移転し、また、津山駅前観光センター内に本移転したので、移転直後に施設利用者が落ち込み、移転案内のPR不足も考えられる。しかし、施設利用者の増加傾向にあることは評価できる。	I	△	津山駅北口広場の一部を供用開始したが、既存広場の工事を実施しており、交通規制等の制約があるため、従前値より悪化しているが、整備が完了すれば、当初の目標達成は可能と考えられる。	I						
	道路 市道B257号線改築事業	—			—								
	道路 市道H048号線改築事業	×			×								
	公園 井口公園	—			△								
	地域生活基盤施設 津山駅北口広場	×			×								
	高質空間形成施設 照明、カラー舗装等	—			△								
	高次都市施設 津山駅前観光センター	×			◎								
提案事業	地域創造支援事業 道路側溝整備事業	△			—								
	地域創造支援事業 だんじり展示館整備事業	△			—								
	地域創造支援事業 作州民芸館整備事業	△			—								
	地域創造支援事業 駅前観光センター内発券場整備事業	×			◎								
	事業活用調査 事業効果分析	—			—								
	事業活用調査 まちなかシネマ実証実験事業	—			—								
	まちづくり活動推進事業 まちづくり啓発事業	—			—								
	まちづくり活動推進事業 町並景観整備事業	—			◎								
関連事業	交通安全対策事業 市道H136号線改良事業	—			△								
	田町武家屋敷(長屋門)保存事業	—			—								
	暮らし賑わい再生事業	—			—								

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	・歴史文化関連施設のPR強化を図る。	・津山駅北口広場を早期完成させる。 ・津山駅周辺の駐車場及び駐輪場対策を講じる。		

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
津山駅周辺地区整備検討会 《社会資本整備総合交付金事後評価検討会》 【庁内の横断的な組織】	関係各課(政策調整室、経済政策課、観光振興課、管理課、土木課、公園緑地課、建築住宅課、下水道課、歴史まちづくり推進室の課長級職員及び産業経済部・都市建設部の各企画調整官)	第1回:平成28年10月17日(月)	津山市都市計画課 (社会資本整備総合交付金主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
公共交通機関や交流拠点施設として津山駅北口広場の整備	・本市の玄関口に相応しい、広域交通拠点としての津山駅北口広場等の整備が出来ている。	・賑わい創出による駐車場不足の懸念や整然とした駐輪場の整備が必要である。 ・駅南側との連携強化が必要である。 ・駅周辺の民間遊休地の開発促進が必要である。	・駅北地区の変貌により、駅南地区の開発の遅れが顕著となり、駅北と駅南との連携強化による駅南開発を行う必要がある。 ・観光拠点整備はなされたが、自家用車や観光バスでの利用者が多く、観光客用の駐車場の整備を行う必要がある。
城下町特有のぜい弱な道路の解消	・市道改良により歩行者道の確保ができた。 ・道路側溝の整備により、市道端の通行が容易となった。	・更なるぜい弱な道路の整備が必要である。 ・商店街等への交流の拡大が必要である。	
城下町機能を活かした都市づくり	・作州民芸館やだんじり展示館の整備により、新たな観光拠点として観光客の増加が期待される。	・商店街等への交流の拡大が必要である。 ・観光客用の駐車場の整備が必要である。	
安全安心な都市機能を向上する整備	・防災公園として井口公園の整備により、中心市街地における防災機能が強化された。	・地区単位の自主防災組織の結成を促して行く必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	広域交通拠点施設の維持・拡大	・観光交流センターや広場等の基盤施設ができ、今後は、施設の活用と運用が課題である。	・公共交通網の確保と新たな開拓 ・施設を有効活用するための催しやイベントの開催
	歴史・文化資源を活かした観光振興	・城下町や城跡を活かした歴史・文化の新たな情報を提供する。	・観光振興に関するPRの強化 ・歴史・文化施設を有効活用するための催しやイベントの開催
	地域防災機能の強化	・地域防災施設等の役割・機能等を広く市民に普及するとともに、市民の防災意識の向上を図る。	・広報活動、情報提供の充実 ・自主防災組織の組織化・育成・強化

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	駐車場・駐輪場の整備	・公共交通機関利用者や観光客の利便性向上のための駐車場を整備する。 ・公共交通機関利用者の利便性向上のための駐輪場を整備する。	・P&R用駐車場の整備 ・観光駐車場の整備 ・津山駅駐輪場の整備
	商店街等への交流の拡大	・魅力ある商業空間の創出、交通サービスの提供、まちなか居住の促進等を推進する。	・中心市街地の魅力向上のための催しやイベントの開催 ・公共交通サービス(ごんごバス)の見直し ・空き店舗対策の推進
	駅北と駅南との連携強化	・駅北と駅南を結ぶ連絡通路の整備を推進する。	・南北自由通路及び駅南口広場の整備

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

- ・事業実施施設や地区等において、残された課題はあるものの、従前の状況と比較し改善の効果が発現されている。
- ・今後は、改善の効果を持続し、更に周辺へ波及させていく街づくりを展開する必要がある。
- ・また、本事業の実施により高揚している市民意識を今後も持続発展させることが重要である。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度		年度								予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	歩行者自転車通行量	人/日	8,138	H24	8,250	H28	確定		8,973	○	あり	●	平成29年10月	平成29年度の中心市街地交通量調査報告書及び城見橋交通量調査報告書における交通量を集計する。	毎年10月に実施
							見込み	●			なし				
指標2	人口の年間社会動態	人/年	-77	H23	±0	H28	確定		11	○	あり	●	平成29年5月	住民基本台帳により大字別人口社会動態集計する。	
							見込み	●			なし				
指標3	歴史文化関連施設利用者数	人/年	17,776	H23	26,000	H28	確定		22,467	△	あり		平成30年1月	事業終了後1年間(平成29年)の利用者数を集計する。	平成29年津山市統計書が公表され次第実施
							見込み	●			なし	●			
指標4	津山駅周辺施設利用者の満足度	—	3.0	H23	3.8	H28	確定		2.5	×	あり	●	平成29年5月	津山駅北口広場が平成29年4月に供用開始を予定していることから、平成29年5月に満足度調査を実施する。	
							見込み	●			なし				
指標5							確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標1							確定								
							見込み								
その他の数値指標2							確定								
							見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・モニタリングを実施したことにより、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	・毎年データが算出できる指標を選定するとモニタリングが容易となるため、指標を設定する際には計測の事も考慮して検討することが望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・各指標の数値の算出方法を記載した書類があったため、容易に算出することができた。	都市再生整備計画の作成時には、モニタリングや事後評価の実施を考慮し、算出方法の記録を保存しておく必要がある。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・住民の会を通じて、事業の進捗状況を説明し理解して貰うことにより、事業中の苦情は少なく、住民との対話の重要性を再認識した。	・まちづくりに関する事業においては、今後も広く市民に情報を公開したうえで、意見や要望等を聴取する。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・採用した指標の多くは、津山市統計書等により毎年度、数値が整理されているもので、モニタリングを容易に実施することができ、また、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	・モニタリングは、事業の進捗状況や効果の発現状況を確認したうえで進め方を見直しできることから有効である。 ・アンケート調査などの時間と費用が掛かる指標を設定することは、計測の事も考慮して検討することが望ましい。
	うまくいかなかった点	・津山駅周辺施設利用者の満足度はアンケート調査であり、調査には時間と費用が必要なため、事業中の効果の確認ができない。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点	・事後調査時点では、主要な事業が未竣工であり、事後評価値が見込み値となることに疑念がある。	

添付様式6－参考記述 今後、社旗資本整備総合交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の社会資本整備総合交付金の活用予定
城東地区を含めた当該地区において、更なる”交流拠点など都市機能の強化による賑わいのまちづくり”を目的とした社会資本整備総合交付金の活用を予定している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市HPの”新着情報”欄に掲載	平成28年11月14日	平成28年12月13日	メール、郵送、FAXにより意見聴取	都市計画課 (社会資本整備総合交付金主管課)
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	○津山駅北口広場整備工事を早期に竣工させて、駅南地区とを結ぶ南北自由通路の整備に早期着手して貰いたい。
-------	---

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	美作大学社会科学部 准教授 武田英樹	第1回 平成28年12月22日	津山市都市計画課 (社会資本整備総合交付金主管課)	社会資本整備総合交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	津山商工会議所 理事 植月優 津山市観光協会 会長 竹内佑宜 津山駅周辺の街づくりのあり方を考える住民の会 会長 小島一三				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	実施工程で多少の遅れはあるものの、おおむね良好である。
	成果の評価	道路整備において、何を目的に整備するのか明確にすべきである。 ソフト事業で、継続可能なものは継続すべきである。
	実施過程の評価	特に意見なし。
	効果発現要因の整理	お年寄りが増加していると思うが、若い方が住む施策を講じる必要があるのではないか。 昼間の交通量のみではなく、夜間交通量による飲食店等の賑わいも見べきではないのか。
	事後評価原案の公表の妥当性	特に意見なし。
	その他	特に意見なし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	概ね妥当と認められる。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	駅北口広場は綺麗になるが、北口広場と吉井川間の民有地の再開発を検討して貰いたい。
	フォローアップ	駅の満足度調査については、事前調査と同数程度のアンケート調査を行い、調査の偏差値を縮小して貰いたい。
	その他	吉井川河川敷の活用策を検討すればよいのではないのか。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	概ね妥当と認められる。
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、社会資本整備総合交付金評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
な し		

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画

ちゅうしん し が い ち さいせい ち く だい かいへんこう
中心市街地再生地区(第3回変更)

おかやまけん つ や ま し
岡山県 津山市

平成28年11月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	オカヤマケン 岡山県	市町村名	ツヤマシ 津山市	地区名	チュウシンシガイチ　サイセイ　テク 中心市街地再生地区	面積	123 ha								
計画期間	平成	24	年度	～	平成	28	年度	交付期間	平成	24	年度	～	平成	28	年度

目標
交流拠点など都市機能の強化による賑わいのまちづくり
目標1　：　県北の中心都市としての拠点性向上を目指したまちづくりを推進する。
目標2　：　誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進する。
目標3　：　津山の特色ある歴史遺産等を活かしたまちづくりを推進する。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 津山市は、岡山県の北東部に位置し、北は鳥取県、南は吉備高原に隣接している。面積は、506.36㎢　の市域を有しており、県北地域の中心都市となっている。 津山市は、中国山系の裾野の緑に囲まれた盆地で、県下三大河川の一つである吉井川が東西に貫流し、また、城下町特有の都市構造を今に残し、津山城跡など歴史的価値の高い建造物など、築城以来の多くの歴史的建造物や近代化遺産が、中心市街地に広く分布し、そして、歴史的な資源や伝統文化が保存・継承され、これらが相まって『津山らしさ』を醸し出している。 しかしながら、中心市街地内の人口は減少し続けており、空き家や空き店舗の増加など、中心市街地の求心力の低下や経済活動の空洞化が依然として進行している。また、城下町特有の町割から防災上のぜい弱性が指摘されているとともに、複雑な権利関係等の問題から土地の有効活用が十分に図られていないといった指摘もあるなど、未だに多くの課題を有している。 本計画地区は、津山市第4次総合計画においても、「中心拠点」として設定し、津山市都市計画マスタープラン（平成19年度策定）では、「本市の玄関口・・・ターミナル機能の強化」などの駅前整備や「県北の中心都市として吸引力の向上」などの中心市街地の整備改善を掲げている地区である。また、津山市中心市街地活性化基本計画では、「安全・安心なまちづくりや公共交通の利便性向上」を掲げている。 そこで、当該基本計画における「津山駅」と、商店街の中心部以西を含めた地区を本計画地区に設定し、再生整備計画を策定することとした。
課題 人口が減少し、少子高齢化が進展する中で、本市が持続的に発展していくためには、環境負荷軽減の観点からも、今後の新たな市街地の拡散・拡大を抑制し、これまでの中心市街地活性化での取組みによる都市基盤や公共公益施設などを有効に活用し、コンパクトでまとまりのある都市づくりを進める。 ①公共交通機関や交流拠点施設として、本市の玄関口である津山駅北口広場を整備し、利便性や快適性を向上させることが求められている。 ②中心商店街の道路は、城下町特有のぜい弱な区割りであり、その解消を図ることが求められている。 ③城下町機能を活かした都市としての魅力の向上を図り、観光や定住を促進させる施策が求められている。 ④ユニバーサルデザインや防災機能を強化することにより、安全安心な都市機能を向上する整備が求められている。
将来ビジョン（中長期） 笑顔あふれる　ふるさと津山　＊ ＊ ＊　歴史と文化を未来につなぐ緑あふれる環境都市”津山”　＊ ＊ ＊ 本計画区域は、津山市都市計画マスタープランで、主要目標として ①県北の中心都市にふさわしい活力ある都市 ②自然と共生するまとまりある都市 ③特色ある資源をまちづくりに活かした魅力的な都市 ④子どもから高齢者、障害者等すべてにやさしい都市 ⑤明日を担う人材の育成 の5つを掲げている。 また、津山市中心市街地活性化基本計画で、歴史・文化を感じ、訪れたい、住みつけたい城下町　としての整備を掲げている。 まちづくりの推進方法としては、市民・NPO・民間企業などと行政との適切な役割分担のもとに「協働のまちづくり」を推進するとともに、まちづくりへの住民の参加機会の提供に努めることとしている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者自転車通行量	人／日	定期観測している7地点と城見橋の歩行者及び自転車の1日当たりの通行量を調査する。	中心部の拠点性の向上により、人の往来の増減が集い賑わいを示す指標となり、事業により通行量の減少に歯止めをかける。	8,138	平成24年度	8,250	平成28年度
人口の年間社会動態	人／年	人口社会動態(転入・転出)を住民基本台帳から把握する。	まちづくりの推進により、暮らしやすさ、住み続けたいと感じれば、必然的に人口社会動態の減少傾向は改善される。	-77	平成23年度	±0	平成28年度
歴史文化関連施設利用者数	人	経年観測している歴史文化関連施設(2施設)の年間利用者数を把握する。	歴史的文化資源を活かすことにより、利用者については、増加を見込む。	17,776	平成23年度	26,000	平成28年度
津山駅周辺施設利用者の満足度		駅及び周辺施設利用者の利用満足度(満足度アンケート)を調査する。【5段階評価平均】	駅周辺の事業により拠点性を高め、利便性・快適性の向上を図ること で、施設利用者の満足度の向上を目指す。	3.0	平成23年度	3.8	平成28年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【整備方針1】人が集い賑わいを感じる「まち」 ・広域交通拠点である津山駅周辺を整備し、利便性・快適性の向上を図る。 ・中心市街地を再構築し、利便性・快適性の向上を図る。。 ・観光客などの訪問者に対し、魅力的な都市機能の向上を図る。		「道路」基幹／市道G023号線、市道B257号線、市道H048号線（電線共同溝） 「公園」基幹／井口公園 「地域生活基盤施設（広場）」基幹／津山駅北口広場 「高質空間形成施設（緑化施設等）」基幹／カラー舗装、照明施設 「高次都市施設（観光交流センター）」基幹／津山駅前観光センター 「地域創造支援事業」提案／道路側溝整備事業、だんじり展示館整備事業、作州民芸館整備事業 津山駅前観光センター内発券場整備事業 「事業活動調査」提案／まちなかシネマ実証実験事業 「まちづくり活動推進事業」提案／まちづくり啓発事業、町並景観整備事業
	【整備方針2】人が暮らしやすいと感じる「まち」 ・都市施設の充実により、魅力的な都市づくりを促進させる。 ・中心市街地を再構築し、利便性・快適性の向上を図る。 ・防災機能を備えた都市機能の向上を図る。	「道路」基幹／市道G023号線、市道B257号線、市道H048号線（電線共同溝） 「公園」基幹／井口公園 「地域生活基盤施設（広場）」基幹／津山駅北口広場 「高質空間形成施設（緑化施設等）」基幹／カラー舗装、照明施設 「地域創造支援事業」提案／道路側溝整備事業、津山駅前観光センター内発券場整備事業 「事業活用調査」提案／まちなかシネマ実証実験事業 「まちづくり活動推進事業」提案／まちづくり啓発事業
	【整備方針2】歴史文化を感じる「まち」 楽しむ「まち」 ・市民や観光客が津山の歴史文化を気軽に感じ楽しめる都市づくりを推進させる。 ・憩い・安らぎ空間を確保し、自然と共生する都市づくりを促進させる。	「公園」基幹／井口公園 「地域生活基盤施設（広場）」基幹／津山駅北口広場 「高質空間形成施設（緑化施設等）」基幹／カラー舗装、照明施設 「高次都市施設（観光交流センター）」基幹／津山駅観光センター 「地域創造支援事業」提案／だんじり展示館整備事業、作州民芸館整備事業 「まちづくり活動推進事業」提案／町並景観整備事業
その他 ○交付期間中の住民参加 現在、吉井川以南においては、周辺町内会及び関係商店を中心とする「津山駅周辺の街づくりのあり方を考える」住民の会”（以下「住民の会」という）」を地元が組織している。 住民の会を中心とし、市民参画型の津山駅北口広場を始めとする吉井川以南の整備に向けた具体的な計画策定を進めている。 将来にわたって継続的にまちづくりを推進していくため、組織体の連携強化を図る検討を進めている。 また、中心市街地活性化基本計画の区域においては、関係町内会及び関係機関で組織する「津山市中心市街地活性化協議会（以下「協議会」という）」を組織している。 協議会を中心として、中心市街地の賑わいの整備に向けた具体的な計画策定を進めている。 将来にわたって継続的にまちづくりを推進していくため、組織体の連携強化を図る必要がある。 ○交付期間中の計画管理について 現在、市役所内部の関係部局による横断的な組織として「津山駅周辺地区整備検討会」を組織し、計画立案を行っている。 交付期間中における事業実施、調整及び目標達成過程の数値確認については、その組織を改変し、「計画管理委員会」とし、対応を図る。 また、関係外部組織との連携によるモニタリングを実施し、円滑な事業推進を図る。 なお、これらの事業実施状況や数値目標の達成状況、モニタリングの結果などについては、市のホームページ等を利用し、随時市民に公表する。		

交付対象事業費	2,519.0	交付限度額	1,103.7	国費率	0.438
---------	---------	-------	---------	-----	-------

基幹事業		事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費		うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		事業費	事業費			
道路		市道G023号線	津山市	直	210m	H24	H25	H24	H25	50	50	50			50
		市道B257号線	津山市	直	30m	H27	H28	H27	H28	102	102	102			102
	(電線共同溝)	市道H048号線	津山市	直	100m	H25	H28	H25	H28	111	111	111			111
公園		井口公園	津山市	直	2.0ha	H24	H26	H24	H26	1,381	558	558			558
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム		—			—										
地域生活基盤施設	(広場)	—	津山市	直	—	H24	H28	H24	H28	1,218	1,218	1,218			1,218
高質空間形成施設	(緑化施設等)	—	津山市	直	—	H27	H28	H27	H28	96	96	96			96
高次都市施設	(観光交流センター)	—	津山市	直	—	H25	H26	H25	H26	87	87	87			87
既存建造物活用事業		—			—										
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
地区再開発事業															
バリアフリー環境整備促進事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型														
	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										3,045	2,222	2,222	0		2,222

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費		交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分	
地域創造 支援事業	道路側溝整備事業	中心商店街・城西地区	津山市	直	497m	H24	H28	H24	H28	33	33	33	33.0
	だんじり展示館整備事業	田町地区(武家屋敷周辺)	津山市	直	300㎡	H27	H28	H27	H28	166	166	166	166.0
	作州民芸館整備事業	城西地区	津山市	直	600㎡	H26	H26	H26	H26	52	52	52	52.0
	津山駅前観光センター内発券場整備事業	—	津山市	直	16㎡	H25	H26	H25	H26	7	7	7	7.0
事業活用調 査	事業効果分析調査	—	津山市	直	—	H26	H26	H26	H26	1	1	1	1.0
	まちなかシネマ実証実験事業	—	津山市	直	—	H25	H27	H25	H27	15	15	15	15.0
まちづくり活 動推進事業	まちづくり啓発事業	—	津山市	直	—	H25	H28	H25	H28	18	18	18	18.0
	町並景観整備事業	—	津山市	直	—	H27	H27	H27	H27	5	5	5	5.0
合計										297	297	297	297.0

[illegible]